

(別表第1の3)

[認知症対応型共同生活介護用]

# 1. 評価結果概要表

作成日 平成 21 年 1 月 20 日

## 【評価実施概要】

事業所番号	3870104720		
法人名	有限会社 ノリテック		
事業所名	グループホーム ひがし野		
所在地	松山市畑寺町丙68番地1 (電話) 089-914-5502		
管理者	高橋 政美		
評価機関名	愛媛県社会福祉協議会 利用者支援班		
所在地	愛媛県松山市持田町三丁目8-15		
訪問調査日	平成 20 年 12 月 1 日	評価確定日	平成 21 年 1 月 21 日

【情報提供票より】 (平成 20 年 11 月 1 日事業所記入)

### (1) 組織概要

開設年月日	平成 17 年 4 月 1 日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	18 人	常勤 14 人, 非常勤 4 人, 常勤換算 14 人	

### (2) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	38,000 円	その他の経費(月額)	9,000 円
敷金	有( )円 ○ 無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有( )円 ○ 無	有りの場合 償却の有無	
食材料費	朝食	円	昼食 円
	夕食	円	おやつ 円
	または1日当たり	1,200 円	

### (3) 利用者の概要 (平成 20 年 11 月 1 日事業所記入)

利用者人数	18 名	男性 5 名	女性 13 名
要介護1	6 名	要介護2	6 名
要介護3	5 名	要介護4	1 名
要介護5	名	要支援2	名
年齢	平均 85 歳	最低 69 歳	最高 94 歳

### (4) 他に事業所として指定等を受けている事業及び加算

指定	あり	指定介護予防認知症対応型共同生活介護
指定	あり	指定認知症対応型通所介護
届出	あり	短期利用型共同生活介護
加算	あり	医療連携体制加算

## 【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

運営者の地元であり、周辺にはみかん山などが広がる自然豊かな場所に建つホームである。玄関を入ると「おかえりなさい」という声に迎えられ、ほっとできる安心感がある。地域に溶け込みながら、デイサービスを活かした活動を通して地域福祉の中心的な存在となっている。ホームは利用者の思いを大切にし、利用者はそれぞれの生活力を活かした生活を送っている。男性の利用者も多く、落ち着いた雰囲気がある。運営推進会議がホームのケアの質の向上に大きな役割を果たしている。

## 【質向上への取組状況】

### ▼ 前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況 (関連項目: 外部4)

前回の改善点については、個々に取り上げて改善計画を立てて取り組むのではなく、ホーム全体としてより良くなるように努力している。デイサービスに関しては積極的に活用に取り組んでいる。

### ▼ 今回の自己評価に対する取り組み状況 (関連項目: 外部4)

自己評価は職員が項目を分担して担当し、運営者及び管理者が全体をまとめている。さらにサービスの向上に活かしていくために、職員全員が評価の意義やねらいをしっかりと理解した上で取り組むことを期待する。

### ▼ 運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み (関連項目: 外部4, 5, 6)

市担当者、社会福祉協議会、地域包括支援センター、地域代表者、利用者、家族など様々な立場の方をメンバーとしている。ホームの報告に終始することなく、委員一人ひとりが主体的に参加し、情報交換を行い、内容が充実している。加えて、研修の場にもなっている。

### ▼ 家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映 (関連項目: 外部7, 8)

ホームでの暮らしぶりは、ホーム便りやホームページ等でいつでも見てもらえるように工夫している。健康状態等については、来訪時に積極的に声をかけ、伝えている。頻繁に来訪することが難しい家族もいるので、毎月文書でも知らせている。年2回家族会を開くとともに、運営推進会議にも参加してもらい、意見を出しやすい場づくりに努めている。出された意見については誠実に対応している。

### ▼ 日常生活における地域との連携 (関連項目: 外部3)

近所の方とは昔からのお付き合いをしている。ホーム便りを町内の掲示板に貼り出し、情報を発信している。地域の行事にはごく当たり前に参加し、地域の仲間としての付き合いをしている。災害対策においても地域と連携していこうと話している。

(別表第1の2)

## 自己評価及び外部評価結果表

### サービス評価自己評価項目 (評価項目の構成)

#### I. 理念に基づく運営

1. 理念の共有
2. 地域との支えあい
3. 理念を実践するための制度の理解と活用
4. 理念を実践するための体制
5. 人材の育成と支援

#### II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援

1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援

#### III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント

1. 一人ひとりの把握
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し
3. 多機能性を活かした柔軟な支援
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働

#### IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

1. その人らしい暮らしの支援
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり

#### V. サービスの成果に関する項目

**ホップ 職員みんなで自己評価!**  
**ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!**  
**ジャンプ 評価の公表で取り組み内容をPR!!!**

ーサービス向上への3ステップー  
 “愛媛県地域密着型サービス評価”

#### 【記入方法】

- 指定認知症対応型共同生活介護の場合は、共同生活住居(ユニット)ごとに、管理者が介護職員と協議の上記入すること。
  - 各自己評価項目について、「取組みの事実」を記入し、取組みたいに※を付け、適宜その内容を記入すること。
  - 「取組みの事実」は必ず記入すること。
- (注) 自己評価について、誤字脱字等の記載誤り以外、外部評価機関が記載内容等を修正することはありません。

#### ※用語について

- 家族等＝家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含む。  
(他に「家族」に限定する項目がある)
- 運営者＝事業所の具体的な経営・運営に関わる決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)。
- 職員＝「職員」には、管理者および非常勤職員を含む。
- チーム＝一人の人を関係者が連携し、共通認識で取り組むという意。  
関係者とは管理者・職員はもとより、家族、かかりつけ医、包括支援センターなど、事業所以外で本人を支えている関係者を含む。

事業所名 グループホームひがし野

(ユニット名) 1Fなのはな

記入者(管理者)  
氏名 高橋政美

評価完了日 平成 20 年 11 月 14 日

(別表第1)

自己評価及び外部評価票

【セル内での改行は「Alt+Enter」です。】

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	(自己評価) 理念「誠心誠意」の下に『①人のために社会のために、そして自分自身のために心から真心を尽くす②人格を最大に尊重し利用者の幸せな生活を提供することに努める③職員同士が助け合いチームワークを大切にする④常に自身の向上を惜しまない⑤仕事に誇りを持ち喜びを感じながら従事する。』がある。  (外部評価) 設立時から変わることのない「誠心誠意」という理念を中心に、人はだれも同等で心から人のために尽くすことが、この地域で利用者一人ひとりがその人らしく暮らし続けていく支援につながっていくと考えている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	(自己評価) ・毎朝の朝礼時に斉唱している。 ・月2回のカンファレンス時にも斉唱している。 ・目につく詰所等に掲示し、見れるようにしている。  (外部評価) 毎朝、朝礼の際に理念を唱和し、一日の業務の全てに活かすよう努めている。職員は、自分もしてほしい介護を真心をこめて提供できるよう取り組んでいる。	※	事あるごとに、理念に合致しているかどうか考えてみるようにしている。常に理念に帰ることが大事なので、グループホーム運営の大黒柱である。職員とも、朝礼時とカンファレンス時に声を出して斉唱しているので、ほとんどの職員が5項目とも覚えている。
3		○家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる	(自己評価) 入居の際や家族会、運営推進会議等で理念について説明し、ひがし野の運営方針をオープンにしている。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>2. 地域との支えあい</b>					
4		○隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	(自己評価) 職員が出勤する際、近所の方へこちらから挨拶や会話をするように心掛けている。 近所から畑を借り、野菜の作り方も教えてもらっているし、近所の散歩途中の方も、結構立ち寄って話してくれるので嬉しい。	※	近所の子供たちが寄ってくれるホームにしていきたい。
5	3	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	(自己評価) 運動会、敬老会、サマーフェスティバル、文化祭等に参加している。昨年も秋祭りの炊き出しには、利用者の方と参加した。 今年は、組長が回ってきたので快く引き受けて回覧板を回したり、神輿を担いだり地域交流に努めている。  (外部評価) 近所の方とは昔からのお付き合いをしている。ホーム便りを町内の掲示板に貼り出して情報を発信している。地域の行事にはごく当たり前に参加し、地域の仲間としてのお付き合いをしている。	※	今後も地域活動に参加し。地域の人々と交流していきたい。
6		○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	(自己評価) 地域の神社清掃を毎月15日に行っている。これには入居者と職員が10数名参加し、地域や老人会の方に喜んで頂いている。 もう2年以上続けているし、欠かしたことはない。	※	気軽に立ち寄ってもらえるよう、日頃から交流を意識しふれあいの場所として提供したい。
<b>3. 理念を実践するための制度の理解と活用</b>					
7	4	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	(自己評価) 全スタッフで自己評価に取り組み、高い意識を持つよう努力している。 又、自由に関覧できるようにしている。  (外部評価) 前回の改善点に特化して検討するのではなく、ホームが全体的により良くなるように努力している。自己評価は職員が項目を分担して担当し、運営者及び管理者が全体をまとめている。	※  ※	改善すべき点は早急に対処し、よりよいホーム運営ができるようにしていきたい。  さらにサービスの向上に活かしていくために、職員全員が評価の意義やねらいを十分理解した上で取り組むことを期待する。ユニットごとに利用者も職員も異なるため、評価も自ずと違ってくるが、職員間で評価が違うことに気づくという視点が、ケアの質の向上につながることを期待する。

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
8	5	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	(自己評価) 2か月に一度、運営推進会議を開催している。 参加者は、民生委員、町内会長、副会長、分館長、老人会長、市役所介護保険課、社会福祉協議会、ご家族、入居者様、職員等18名位。各自自己紹介、行事報告、地域行事の情報交換、意見交換、をして、地域に密着した話し合いを展開し実践している。  (外部評価) 市担当者、社会福祉協議会、地域包括支援センター、地域代表者、利用者、家族など様々な立場の方をメンバーとしている。ホームの報告に終始することなく、委員一人ひとりが主体的に参加して情報交換を行っており、内容が充実している。加えて研修の場にもなっている。	※	地域の学校関係者への参加をお願いしたい。 職員は順番に出席しているが、全職員が早めに一巡できた嬉しい。
9	6	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	(自己評価) 松山市介護保険課、社会福祉協議会の勉強会へ会場を提供したり、ボランティアの受け入れ等に協力している。  (外部評価) 行政の勉強会の会場を提供している。市社協の研修やボランティアの受け入れなども行い、ホームのオープンな雰囲気づくりに役立っている。		
10		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	(自己評価) 家族会において、成年後見人制度について説明し、意見交換をした。 カンファレンスに外部講師として行政書士を招き、成年後見人制度について学ぶ機会を設けた。 いつでも活用できるよう、ホームに資料を用意している。		
11		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	(自己評価) 身体的虐待防止の徹底、精神的虐待（言葉の虐待）についてもカンファレンスの議題で取り上げて話し合っている。 定期的に、各フロアに接遇箱を設置し、家族や来所の方、スタッフ間同士の対応等で気付くことがあれば、前向きに話し合う機会を設けている。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>4. 理念を実践するための体制</b>					
12		○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	(自己評価) 利用者の立場に立って、契約書の内容を詳細に説明し、質問や疑問にも丁寧に対応するように心掛けている。	※	十分納得した上での契約になるよう努めていきたい。
13		○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	(自己評価) 家族会での意見や玄関先に置いてある意見箱の苦情等に対して、カンファレンス等で話し合い、改善を図っている。		今後も家族会、運営推進会議等で意見や不満・苦情を表せる機会を継続して設けていきたい。
14	7	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている	(自己評価) 毎月、機関紙「ひがし野からのお便り」を発行しホームでの様子をお知らせしている。又、ホームページを開設して随時更新し、どこからでもホームの状態が見られるようにしている。 金銭管理については、毎月お小遣い長をコピーして郵送している。	※	毎月、入居者の担当スタッフが1ヶ月の様子を電話か文書でそれぞれのご家族に知らせるようにする。
			(外部評価) ホームでの暮らしぶりは、ホーム便りやホームページなどでいつも見てもらえるよう工夫している。健康状態等については、来訪時に伝えている。頻繁に来訪することが難しい家族もいるので、毎月電話か文書による報告もしている。		
15	8	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	(自己評価) 年に2回の家族会、2ヶ月に1回の運営推進会議の開催で出た意見は、前向きに検討してグループホームの運営にすぐに反映できるようにしている。 10月の家族会で出た、「毎月の入居者の詳細な様子が知りたい」の意見もすぐに職員と相談して実行。		
			(外部評価) 年2回家族会を開くとともに、運営推進会議にも参加してもらい、家族が意見等を出しやすい場づくりに努めている。出された意見については誠意をもって対応し、運営に反映させている。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
16		○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	(自己評価) 意見・疑問ノートを各フロアーに置いて、日頃の業務で気付いた事等を書いてもらい、それをカンファレンスで話し合っってより良い方法を模索している。		
17		○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	(自己評価) 新入居者の状態により、例えば、男性職員の対応を受付けない方の場合なら、女性職員に交代したりするなど柔軟に対応している。		
18	9	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	(自己評価) 職員のフロアー移動は、1度に複数人の交代はしないようにして、馴染みの関係が途切れないように留意している。入居者の心理的な事も考慮しながら、職員の配置をしている。  (外部評価) 前回調査から一年間は異動や離職はほとんどない。やむを得ない場合には、引き継ぎを十分することは勿論、早い段階から顔馴染みになれるよう工夫している。		
<b>5. 人材の育成と支援</b>					
19	10	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	(自己評価) 雇用の始め、1週間程度研修期間に当てている。当ホームのマニュアルを説明しながら実際の業務の実施をしている。外部研修への参加については順番に参加出来るよう留意している。また、詰所等に講習予定を貼り、個人的に行く職員などもいる。  (外部評価) 県在宅介護研修センター、グループホーム連絡協議会、県社協などの研修情報を開示し、適切な研修を順次受講できるよう支援している。職員は意欲的に、興味のある研修を受講している。		



自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
20	11	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	(自己評価) グループホーム相互研修を行ったり、定期的に交流会を開催して、意見交換、意識向上を図っている。  (外部評価) 近隣8つのグループホームでネットワークを築いており、順番に担当ホームがテーマや会場を提供しての相互研修を実施している。地域包括支援センターも巻き込みながら連携を深めるように努めている。		
21		○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	(自己評価) 職員の家庭環境を考慮し、休み希望を聞き、シフトを組んでいる。		
22		○向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	(自己評価) 職員に研修、連絡会等への参加を呼びかけ、シフトの調整を行う等して向上心を持って働けるよう環境を整えている。		
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
<b>1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応</b>					
23		○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	(自己評価) 入所前の相談時から、ご本人、御家族の不安や要望をしっかりと傾聴し、どの様に対応すると満足していただけるか十分に検討している。		
24		○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	(自己評価) 入居前の面接でより深い情報を得て、ホームの方針を示すことで家族の不安を解消し、安心して頂けるよう努めている。		



自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
25		○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	(自己評価) ご本人、ご家族のニーズを把握し、入浴、食事作り、レクリエーションの参加など意思を尊重したサービスプランをたてている。		
26	12	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	(自己評価) 入居希望があったら御家族と一緒に来所して頂き、ホームの雰囲気に慣れるように支援し、自宅を訪問して生活環境を把握し、希望を聞いたりして、御家族と連携を取っている。  (外部評価) 利用前に自宅や病院等を訪問し、本人や家族に直接会って状況や生活環境を理解するようにしている。また、ホームに来訪してもらい、雰囲気を体験しながら馴染めるように配慮している。		
<b>2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援</b>					
27	13	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	(自己評価) 童謡・唱歌等を一緒に唄い、昔を思い出して当時のことを教えて頂いたり、一緒に食事作りをし、調理方法等を教わっている。職員は尊敬と感謝の気持ちを言葉にしてより良い関係を築いている。  (外部評価) 利用者の生活力等を見極めながら、自分でできることを喜びと感ぜてもらえるよう支援している。職員は、利用者の「来てくれたん」などの喜んでくれる声に支えられている。		
28		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	(自己評価) 御家族とコミュニケーションを取り、自宅での暮らしぶりなどを教えて頂いたり、現在の状況を常に報告して話をする場を設けている。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
29		○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	(自己評価) 運動会や、お祭り等の御家族が参加する行事が多く、特に年1回のバス旅行では御家族とご本人との良い思い出作りの場となっている。		
30		○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	(自己評価) 買物、外出等で入居者の家の近くを通ったり、思い出の場所を選んで出かけたりしている。友人などの面会も受け入れている。手持ちの昔の写真を見ながら会話をしたり、若い頃の話聞くようにしている。		
31		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	(自己評価) 常に、入居者同士の言動に気を配り、関係を把握し、トラブルは未然に防ぐ事が出来る様に努めている。レクリエーションや手伝い等、皆で楽しんで行っている。また、時には職員の見守りのもと、入居者同士が一緒に入浴したりしている。		
32		○関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	(自己評価) 退所された後でも、いつでも来所出来るような声掛けや状態を作っている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
<b>1. 一人ひとりの把握</b>					
33	14	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	(自己評価) 一人ひとりの思いや意向の把握に努め、生きがいのある生活が出来るように支援している。  (外部評価) 入居時に本人及び関係者等から聞いたことと、利用者に寄り添って話を聞いたり、日々の言動の中から把握した思いや意向について、センター方式で記録して蓄積し、共有している。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
34		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	(自己評価) 入居前の生活歴、馴染みの暮らしをアセスメントし、今までに使っていた家具や、仏壇等馴染みのある物を居室に置き、安心して生活して頂けるような生活環境作りに努めている。		
35		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	(自己評価) 毎朝決まった時間にバイタル測定をし、心身状態の把握に努めている。また、日常生活の中でできる事を見つけ、役割として支援している。生活記録の中でも日々の過ごし方を把握している。		
<b>2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し</b>					
36	15	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	(自己評価) 月2回の会議に職員がユニットごとに分かれ、ケアカンファレンスをし、活発に意見を出し合い、介護計画を見直している。モニタリングをし、ご本人、ご家族の意向を反映しながらより良いプラン作りをしている。  (外部評価) 利用者ごとに担当職員を決めているが、担当職員のみ任せることなく、介護計画の具体的目標を介護日誌と連携して記載できる工夫をしている。常に全職員が利用者一人ひとりの介護目標の評価ができ、新たな介護計画に活かしている。		
37	16	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	(自己評価) 定期的な介護計画の見直しの他に、状態の変化や入院等で日常生活動作の相違が生じた時は、その都度プランの見直しをし、ご本人、御家族の同意を得ている。  (外部評価) 基本的には3か月～6か月での見直しとしているが、実質的には毎月2回のミーティングのうち1回はカンファレンスを中心としており、一人ひとりの月間アセスメント表を作成して細かく再評価している。これを基に必要なに応じて具体的な介護計画を作成している。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
38		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	(自己評価) 月2回のカンファレンスを通して行えている。また、気づきを個別記録に記入しスタッフ間で情報共有し、ケアの質の向上に努めている。		
<b>3. 多機能性を活かした柔軟な支援</b>					
39	17	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	(自己評価) 御家族やご本人の都合に合わせて面会時間に制限はなく、プライベートな空間で和めるスペースを作っている。外食、外泊についてもいつでも良い時間に行きついでいる。  (外部評価) デイサービスへの参加、外食、バス旅行、自宅訪問、病院受診など、利用者の希望にそえるよう柔軟に様々な取組みを行っている。		
<b>4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働</b>					
40		○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	(自己評価) 年1回の消防の指導や、中学生の職場体験、専門学生のボランティアの受け入れを積極的に行っている。		
41		○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	(自己評価) 医療依存度の高い方を他施設に紹介したり、地域の居宅支援事業所からの入所の相談などに応じている。		
42		○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	(自己評価) 地域包括支援センター開催の連絡会に出席し、情報交換を行っている。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
43	18	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	(自己評価) ご本人、御家族の許可を得て、協力病院から往診（内科、皮膚科、歯科）に来て頂いている。また、個人的にご本人のかかりつけの病院へ通院したり、他科への受診も必要に応じてスタッフと通院している。  (外部評価) 協力医療機関の医師をかかりつけ医としており、専門的な医療機関の受診が必要な場合は、協力医療機関に連携をとってもらっている。かかりつけ医と看護師による週2回の往診で健康管理に努めている。		
44		○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	(自己評価) 認知症の理解が十分に出来ている医療機関に受診し、周辺症状が悪化している場合にも助言を受けたり、内服薬の処方してもらっている。		
45		○看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	(自己評価) ホームに何名かの看護職員がおり、入居者の症状に合った対応、医療機関への受診につないでいる。		
46		○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	(自己評価) 協力病院、救急病院への入院時には密に連絡を取り、病状の経過、退院の時期を相談し、出来るだけ早く再入居できるよう対応している。また、職員が出来るだけ病院にお見舞いに行き、ご本人の心のケアになるよう努めている。		
47	19	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	(自己評価) 入居時に重度化や終末期のあり方についてご本人や御家族と話し合い、方針を決めている。グループホームでの対応が困難になった場合、御家族と話し合い、ご本人にとって安心して過ごせる施設に移行していただくよう話し合いをしている。  (外部評価) 重度化や終末期における指針を作成しており、入居時に十分な説明をしている。また、必要に応じて医師と連携しながら話し合いをもっている。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
48		○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	(自己評価) 御家族、ご本人の意向を第一に受け止めながら、医療依存度によっては主治医、入院先のソーシャルワーカー等と情報共有し、十分な説明のもと家族の理解を得ている。		
49		○住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	(自己評価) 関係者間で情報共有し、ご本人がスムーズに住み慣れるよう協働している。申し送りも細かく行っている。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
50	20	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	(自己評価) 接遇月間を設け、職員の意識を再度向上させたり、個人名を表に出さずに部屋番号で記録箱も管理している。  (外部評価) 利用者の尊厳を損ねることがないよう、声かけや対応には配慮している。プライバシーに関する記録などを不用意に目につく所に放置しないよう、常に注意している。		
51		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	(自己評価) お茶の時間も「この中からどれにしますか？」とボードを使ってリクエストを聞いたり、入浴時間の相談をしたり、相手に合わせた対応が出来ている。		



自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
52	21	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	(自己評価) 買物や外出など、一人ひとりのペースや希望を優先し、それに沿えるように努めている。行事などの都合上職員側の都合になってしまうこともあるが、その都度説明している。  (外部評価) 一日の基本的な流れはあるが、利用者のその日の状態や気分により柔軟に対応している。食事時間に「後で」と言われれば折を見て再び声をかけたり、食欲を誘うような声かけを工夫するなどしている。		
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
53		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	(自己評価) 着る洋服を一緒に選んだりして、その方らしい身だしなみができるように努めている。汚れていれば更衣の声掛けをし、支援している。毎月1回美容院の訪問があり、希望者にカットを提供している。		
54	22	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	(自己評価) 毎日、一緒にコミュニケーションを取りながら食事作りや片付けをしている。希望や状態にあった食事を提供し、楽しく美味しく食べれるように支援している。  (外部評価) 材料の下ごしらえを共にしたり、配膳を手伝ってもらうことで、香りや視覚も働かせて、食べる楽しみを演出している。ゆっくり食べる方を急かしたりすることなく見守り、会話をしながら食卓を共に囲んでさりげなく支援している。	※	食器洗いは一人の方だけでなく、他にもやりたい方はいるので、いろんな方ができる様に工夫したい。
55		○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	(自己評価) 健康状態に配慮しながら、一人ひとりの嗜好に合わせて支援している。		



自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
56		○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	(自己評価) 定期的に声掛けをし、スムーズな排泄を促している。布パンツだけで不安な方は、パットを使用し、日中は布パンツで過ごしていただいている。	※	各自の排泄パターンをより把握し、失敗の回数を減らしたい。
57	23	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	(自己評価) 一人ひとりの入浴希望時間を聞き、ニーズに合った入浴をして頂いている。また、保湿保温効果のある入浴剤を使用し、入浴後も気持ちよく過ごせるように支援している。  (外部評価) 利用者の習慣を大切にしながら、入浴の頻度や時間帯等を工夫している。入浴が好きでない方も清潔を保てるように、声かけを工夫している。必要に応じてシャワー浴もできる。		
58		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	(自己評価) 疲れた時には、居室で横になれるように支援している。昼間は、適度にレクリエーション等で体を動かしてもらい、良く睡眠が取れるように支援している。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
59	24	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	(自己評価) 御家族ご本人のアセスメントから、生活歴を把握し介護計画を立てている。役割や趣味を取り入れて毎日楽しく、生きがいを持ち生活できるように支援している。また、季節の行事も積極的に取り入れている。  (外部評価) 男性の入居者も多く、囲碁や麻雀などを楽しみとしている方もいる。習字、歌、おしゃべり、レクリエーション、ゲーム、公文学習等で頭の体操や気晴らしを支援している。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
60		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	(自己評価) 小額のお金を自己管理できる方は、ご自分で所持して頂き、そうでない方には職員が管理し、買物する時にはご自分で使えるように支援している。		
61	25	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	(自己評価) 毎日食事の買物に入居者と出掛け、一人ひとりの希望に沿って買物、ドライブ、散歩等戸外に出られるように支援している。  (外部評価) 食事の買い物へは、利用者と一緒に毎日出かけている。みかん山の側を散歩するのが日課となっており、のんびりと散策を楽しんでいる。地域の行事が多くあり、ほとんどのものに参加している。		
62		○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	(自己評価) 日常の会話の中で出たご本人が行ってみたい場所や、ホテルやレストランでの外食、家族を交えての遠距離バス旅行等を行い、外出の機会を作っている。		
63		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	(自己評価) 家庭の事情でできない場合もあるが、訴えがあれば電話を掛けられるように支援している。		
64		○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	(自己評価) 訪問時間の規定はなく、いつでも訪問してもらい、一緒にお茶を飲んだり、レクリエーションをしたり楽しい時間を共有していただいている。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(4) 安心と安全を支える支援					
65		○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	(自己評価) 転倒のリスクを考慮しながら、身体拘束をしないケアが行えている。センサー等によりすぐに対応できる環境も整っている。		
66	26	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	(自己評価) 外玄関は防犯の為施錠しているが、内側からの開閉は自由に行えるようにしている。内玄関のセンサーにより出入りを確認し、安全に留意している。  (外部評価) 外玄関は利用者自身が鍵を開けて出入りできる。職員が常駐する事務室からもデイサービスの入り口からも見守ることができる作りになっている。玄関先では常に「いってらしゃい」「おかえりなさい」というあいさつが交わされている。		
67		○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	(自己評価) 職員同士、お互いの居場所を確認し合いながら、常時フロアに職員が一人はいて対応出来る体制にある。居室に入室する際は、必ずノックして声掛けをしている。また、夜間は廊下の明かりをつけて、安全に配慮している。		
68		○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	(自己評価) 包丁、ハサミ、洗剤類、消毒類等も自然な形で収納しており、施錠はしていない。職員が見守り、安全を確保している。		
69		○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	(自己評価) 些細なことでも報告し、ヒヤリハットや事故報告書を元にカンファレンス等で話し合い再発防止に取り組んでいる。火災については年2回入居者・職員全員で防火訓練を行い、職員は定期的に防火訓練を行っている。		


自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
70		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	(自己評価) 地域で実施している救命訓練に職員が参加し、人工呼吸法、AED使用法等を身につけている。		
71	27	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	(自己評価) 年に1回消防署の指導の下、避難訓練を実施し、月に一度ホーム独自で避難訓練、初期消火、通報訓練を実施している。  (外部評価) 利用者も参加して、年2回の避難訓練を実施している。夜間を想定した訓練も行い、連絡網の工夫をし、同時に防災や救命救急の訓練もしている。更に近所だけでなく地域を巻き込んだ避難訓練を考えている。		
72		○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている	(自己評価) 身体の状況や、認知レベルの低下により状態が変わった時や、熱が出た時等も必ず御家族に連絡を入れて報告をしている。状況が変わった時には、一緒に話し合いどのような方向で生活して頂きたいかを聞き、意向もお聞きして、ご本人が一番良い状態で生活が送れるように取り組んでいる。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
73		○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	(自己評価) 毎朝バイタルチェックをし変化を見落とさないようにしている。熱がある場合はクーリングで様子を見る等をし、受診の必要があるか看護職員が見極めをし、対応している。		
74		○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	(自己評価) 薬の効果、副作用は個人別に確認できるようにしている。服薬の確認は職員が声に出して必ず確認をしている。また、排便の状態や、血糖値測定の数値により薬を中止する時もある。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
75		○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	(自己評価) 水分量に注意したり、ヨーグルトや、週に3回来て頂いているヤクルトさんから飲み物を購入して提供したり便秘の予防に努めている。排便の確認をし、3～4日なければ緩下剤を服用する場合もある。		
76		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	(自己評価) 毎食後の口腔ケアの徹底と、義歯の方は寝る前に洗浄液につける事を習慣化し、清潔を保持出来るよう努めている。また、歯科医師、歯科衛生士による歯科受診、口腔指導、メンテナンスを受けている。		
77	28	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	(自己評価) 食事は一汁三菜のバランスの取れたものになるよう支援している。水分は毎食時と、10時のお茶、15時のおやつと、各自飲みたい時に摂って頂き、水分量チェックをしている。  (外部評価) カロリーや栄養バランスに配慮しながら、おいしく喜んで食べてもらえるよう工夫している。水分摂取については、お茶や水だけでなく、汁ものなどで目先を変えながら、無理なく必要量を確保できるよう工夫している。	※	栄養士による定期的な指導を受け、栄養バランスの見直しを行って行きたい。
78		○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している（インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等）	(自己評価) 食事前、排泄後の手洗い、外出後の手洗い・うがいを習慣化し感染予防に努めている。皮膚感染予防のためにも、ゴム手袋を使用し、使い捨てしている。インフルエンザの予防接種も実施している。		
79		○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	(自己評価) 調理用具等は乾燥機を使用したり、夕食後にはまな板や布巾、包丁をハイターにつけて、衛生管理に注意を払っている。食材の賞味期限も気をつけており、毎日買物に行き、新鮮な食材を提供している。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
80		○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	(自己評価) 門から入り口まで、沢山の花や、金魚やめだかがいる池があり、建物の外観からも「どんな所かな?」と入ってみたい工夫をしている。		
81	29	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価) BGMにオルゴール音楽や、リラックスできる曲等を流している。職員の声や、食器の音等、利用者にとって不快にならないように配慮している。庭に咲いている季節の花を生けたり、ハーブを芳香剤として置いたり工夫している。  (外部評価) 玄関先には鉢植えの草花や、めだかが泳ぐ水鉢が配されている。台所はオープンな作りで居間と一体となっており、何をしても利用者と一緒に居るような安心感がある。ゆったりとソファに座り、みかん山に続く広い庭の緑を眺められる。廊下は車いすが行き交うことのできるゆとりがある。		
82		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	(自己評価) 台所、リビングスペースにおいてゆとりがあり、職員の目の届く中で一人ひとりの居場所を持てるようにしている。また、ホームとデイサービスが対面する玄関前にベンチを置いて外の空気を吸いながらゆっくり出来るようにしている。		
83	30	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価) 居室の家具はご本人の好きな物を持ち込みして頂いている。自宅で使用されていた馴染みの家具やお仏壇など、ご本人が過ごされていた時と同じような空間作りで安心して過ごせるよう工夫をしている。  (外部評価) お供え物をしてある仏壇、使い慣れたタンス、家族の写真、手作りの花や書、机など、各々の馴染みの物が持ち込まれ、安心して過ごせる自分の居場所を作っている。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
84		○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のだよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	(自己評価) 掃除の都度換気をしている。また、冬季でも定期的に換気を心掛けている。室温はできるだけ一定に保ち、利用者それぞれの体感温度も考慮して衣類を選んでもらっている。		
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり					
85		○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	(自己評価) 過去のヒヤリハット報告や、利用者・スタッフの意見を活用して、カーペットの段差やゴミ箱の配置、浴室の手すり位置等安全かつ利用しやすいように工夫している。		
86		○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	(自己評価) 短い声掛けや、メモに書いたりなど、その方に応じた声掛けで自立支援を心掛けている。		
87		○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	(自己評価) 中庭は芝生を敷き詰め、二人乗りのブランコもあり楽しんで頂ける空間作りをしている。天気の良い日はそこで行事やお茶などをして活用できている。		

(注)

- 1  部分は自己評価と外部評価の共通評価項目。
- 2 全ての自己評価又は外部評価の項目に関し、具体的に記入すること。



V. サービスの成果に関する項目			
項目	取り組みの成果 (該当する箇所を○印で囲むこと)	判断した具体的根拠	
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	① ほぼ全ての利用者の 2 利用者の2/3くらいの 3 利用者の1/3くらいの 4 ほとんど掴んでいない	お米が食べられない方は毎食パンを提供したり、朝食はパンにジャム、ココアと決めている方にはそれを提供している。入浴も夕方に入る習慣がある方には希望通り受け入れている。また、買物やドライブに行きたい時には、その都度お連れしたり、デイサービスの送迎時に一緒に便乗して気分転換を図るなど工夫している。
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	① 毎日ある 2 数日に1回程度ある 3 たまにある 4 ほとんどない	のんびり一緒に洗濯物を干したり、お茶を飲みながら食事のメニューを決めたりしている。
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	① ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	お手伝い、入浴、レクリエーション、外出、行事の時には、その都度本人に意向を確認した上で無理の無いように参加している。
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	① ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	随時近所の散歩に一緒出かけることや、掃除、食事作り、洗濯物干し・たたみ等その方の出来る事を見守りの中でしていただいている。その際に職員が必ず「助かりました、ありがとうございました。」など笑顔で言葉掛けすることも心がけている。常に利用者様の表情や笑顔を見ながら声かけをするようにしている。
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	① ほぼ全ての利用者が ② 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	一人で玄関を開け、隣接するデイサービスに行ったり、玄関先等を散歩して戻って来られたり、ドライブや買物に行きたいとの要望がある時にはその都度出掛けている。
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	① ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	定期的な往診、毎朝のバイタルチェックをしている。熱が37℃以上の時には再度測定している。血圧では上が140以上の時にも再度測定して、日頃と違う時や変わった事がある時には、すぐ看護師に連絡している。看護師が勤務でない時には協力病院に連絡し、Drの指示で対応している。
94	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	① ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	朝は自分で起きられる方以外は、7時に声掛けをしている。眠たいと言われる方や声を掛けて起きられない方はしばらく休んで頂いている。夜も就寝時間は決まっていないが9時までには休まれている。眠れないと起きて来られる方にはリビングでテレビを見て頂いたり、温かい飲み物を飲んで頂き安心する事が出来るようにしている。
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができていく	① ほぼ全ての家族と 2 家族の2/3くらいと 3 家族の1/3くらいと 4 ほとんどできていない	行事や面会時に、ホームでの生活や状況等報告している。更新時には家族様の意向、本人様にどのように過ごして欲しいか聞き、ケアプランに反映させている。また、運営推進会議等の時には、家族様だけでの話を設け、後でご意見等頂いている。
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	① ほぼ毎日のように 2 数日に1回程度 3 たまに 4 ほとんどない	地域の方が来られたり、近隣の認知症の方が時々ホームに立ち寄り、お茶を飲みながら入居者の方や職員との会話を楽しむ光景がある。

項 目		取 り 組 み の 成 果 (該当する箇所を○印で囲むこと)	判断した具体的根拠
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	1 大いに増えている (自己 ② 少しずつ増えている 評価) 3 あまり増えていない 4 全くいない	年度が変わり地元町内会の役員さんも別の人が参加して知り合いが増えた。町内会の行事にはすべて参加しているので少しずつ応援者も増えている。
98	職員は、生き活きと働けている	① ほぼ全ての職員が (自己 2 職員の2/3くらいが 評価) 3 職員の1/3くらいが 4 ほとんどいない	毎朝の朝礼で気持ちの良いスタートがきれるようにしている。スタッフ間のチームワークも取れており、良好な人間関係を築く事が出来ている。
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	1 ほぼ全ての利用者が (自己 ② 利用者の2/3くらいが 評価) 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	本人の意向を確認しながら、ケアを進めている。手伝い等も見守りのもと無理のないように活動量を調整している。行事、外出、外食等も計画し、楽しみながら生活できるようにしている。
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	1 ほぼ全ての家族等が (自己 ② 家族等の2/3くらいが 評価) 3 家族等の1/3くらいが 4 ほとんどできていない	面会や、家族会に来られた時に意見、希望、気づいた事などを聞いて次のケアプランに生かせるよう努力している。又、状態の変化があった時などは速やかに連絡するよう努力している。しかし、意見が言えない場合もあるかと思うので、できるだけ言いやすい雰囲気づくりをしたい。

## 【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

(自己評価)

(別表第1の2)

## 自己評価及び外部評価結果表

### サービス評価自己評価項目 (評価項目の構成)

#### I. 理念に基づく運営

1. 理念の共有
2. 地域との支えあい
3. 理念を実践するための制度の理解と活用
4. 理念を実践するための体制
5. 人材の育成と支援

#### II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援

1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援

#### III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント

1. 一人ひとりの把握
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し
3. 多機能性を活かした柔軟な支援
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働

#### IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

1. その人らしい暮らしの支援
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり

#### V. サービスの成果に関する項目

**ホップ 職員みんなで自己評価!**  
**ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!**  
**ジャンプ 評価の公表で取り組み内容をPR!!!**

ーサービス向上への3ステップー  
 “愛媛県地域密着型サービス評価”

#### 【記入方法】

- 指定認知症対応型共同生活介護の場合は、共同生活住居(ユニット)ごとに、管理者が介護職員と協議の上記入すること。
- 各自己評価項目について、「取組みの事実」を記入し、取組みたいに※を付け、適宜その内容を記入すること。

- 「取組みの事実」は必ず記入すること。

(注) 自己評価について、誤字脱字等の記載誤り以外、外部評価機関が記載内容等を修正することはありません。

#### ※用語について

- 家族等＝家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含む。  
(他に「家族」に限定する項目がある)
- 運営者＝事業所の具体的な経営・運営に関わる決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)。
- 職員＝「職員」には、管理者および非常勤職員を含む。
- チーム＝一人の人を関係者が連携し、共通認識で取り組むという意。  
関係者とは管理者・職員はもとより、家族、かかりつけ医、包括支援センターなど、事業所以外で本人を支えている関係者を含む。

事業所名 グループホームひがし野

(ユニット名) 2F こすもす

記入者(管理者)  
氏名 高橋政美

評価完了日 平成 20 年 11 月 14 日

(別表第1)

自己評価及び外部評価票

【セル内での改行は「Alt+Enter」です。】

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	(自己評価) 理念「誠心誠意」の下に『①人のために社会のために、そして自分自身のために心から真心を尽くす②人格を最大に尊重し利用者の幸せな生活を提供することに努める③職員同士が助け合いチームワークを大切にする④常に自身の向上を惜しまない⑤仕事に誇りを持ち喜びを感じながら従事する。』がある。		
			(外部評価) 設立時から変わることのない「誠心誠意」という理念を中心に、人はだれも同等で心から人のために尽くすことが、この地域で利用者一人ひとりがその人らしく暮らし続けていく支援につながっていくと考えている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	(自己評価) ・毎朝の朝礼時に斉唱している。 ・月2回のカンファレンス時にも斉唱している。 ・目につく箇所等に掲示し、見れるようにしている。	※	事あるごとに、理念に合致しているかどうか考えてみるようにしている。常に理念に帰ることが大事なので、グループホーム運営の大黒柱である。職員とも、朝礼時とカンファレンス時に声を出して斉唱しているので、ほとんどの職員が5項目とも覚えている。
			(外部評価) 毎朝、朝礼の際に理念を唱和し、一日の業務の全てに活かすよう努めている。職員は、自分もしてほしい介護を真心をこめて提供できるよう取り組んでいる。		
3		○家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にした理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる	(自己評価) 入居の際や家族会、運営推進会議等で理念について説明し、ひがし野の運営方針をオープンにしている。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>2. 地域との支えあい</b>					
4		○隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	(自己評価) 職員が出勤する際、近所の方へこちらから挨拶や会話をするように心掛けている。 近所から畑を借り、野菜の作り方も教えてもらっているし、近所の散歩途中の方も、結構立ち寄って話して行ってくれるので嬉しい。	※	近所の子供たちが寄ってくれるホームにしていきたい。
5	3	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	(自己評価) 運動会、敬老会、サマーフェスティバル、文化祭等に参加している。昨年も秋祭りの炊き出しには、利用者の方と参加した。 今年は、組長が回ってきたので快く引き受けて回覧板を回したり、神輿を担いだり地域交流に努めている。  (外部評価) 近所の方とは昔からのお付き合いをしている。ホーム便りを町内の掲示板に貼り出して情報を発信している。地域の行事にはごく当たり前に参加し、地域の仲間としてのお付き合いをしている。	※	今後も地域活動に参加し。地域の人々と交流していきたい。
6		○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	(自己評価) 地域の神社清掃を毎月15日に行っている。これには入居者と職員が10数名参加し、地域や老人会の方に喜んで頂いている。 もう2年以上続けているし、欠かしたことはない。	※	気軽に立ち寄ってもらえるよう、日頃から交流を意識しふれあいの場所として提供したい。
<b>3. 理念を実践するための制度の理解と活用</b>					
7	4	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	(自己評価) 全スタッフで自己評価に取り組み、高い意識を持つよう努力している。 又、自由に閲覧できるようにしている。  (外部評価) 前回の改善点に特化して検討するのではなく、ホームが全体的により良くなるように努力している。自己評価は職員が項目を分担して担当し、運営者及び管理者が全体をまとめている。	※   ※	改善すべき点は早急に対処し、よりよいホーム運営ができるようにしていきたい。  さらにサービスの向上に活かしていくために、職員全員が評価の意義やねらいを十分理解した上で取り組むことを期待する。ユニットごとに利用者も職員も異なるため、評価も自ずと違ってくるが、職員間で評価が違うことに気づくという視点が、ケアの質の向上につながることを期待する。

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
8	5	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこの意見をサービス向上に活かしている	(自己評価) 2か月に一度、運営推進会議を開催している。 参加者は、民生委員、町内会長、副会長、分館長、老人会長、市役所介護保険課、社会福祉協議会、ご家族、入居者様、職員等18名位。各自自己紹介、行事報告、地域行事の情報交換、意見交換、をして、地域に密着した話し合いを展開し実践している。  (外部評価) 市担当者、社会福祉協議会、地域包括支援センター、地域代表者、利用者、家族など様々な立場の方をメンバーとしている。ホームの報告に終始することなく、委員一人ひとりが主体的に参加して情報交換を行っており、内容が充実している。加えて研修の場にもなっている。	※	地域の学校関係者への参加をお願いしたい。 職員は順番に出席しているが、全職員が早めの一巡できた嬉しい。
9	6	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	(自己評価) 松山市介護保険課、社会福祉協議会の勉強会へ会場を提供したり、ボランティアの受け入れ等に協力している。  (外部評価) 行政の勉強会の会場を提供している。市社協の研修やボランティアの受け入れなども行い、ホームのオープンな雰囲気づくりに役立っている。		
10		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	(自己評価) 家族会において、成年後見人制度について説明し、意見交換をした。 カンファレンスに外部講師として行政書士を招き、成年後見人制度について学ぶ機会を設けた。 いつでも活用できるよう、ホームに資料を用意している。		
11		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	(自己評価) 身体的虐待防止の徹底、精神的虐待（言葉の虐待）についてもカンファレンスの議題で取り上げて話し合っている。 定期的に、各フロアーに接遇箱を設置し、家族や来所の方、スタッフ間同士の対応等で気付くことがあれば、前向きに話し合う機会を設けている。		



自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>4. 理念を実践するための体制</b>					
12		○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	(自己評価) 利用者の立場に立って、契約書の内容を詳細に説明し、質問や疑問にも丁寧に対応するように心掛けている。	※	十分納得した上での契約になるよう努めていきたい。
13		○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	(自己評価) 家族会での意見や玄関先に置いてある意見箱の苦情等に対して、カンファレンス等で話し合い、改善を図っている。		今後も家族会、運営推進会議等で意見や不満・苦情を表せる機会を継続して設けていきたい。
14	7	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	(自己評価) 毎月、機関紙「ひがし野からのお便り」を発行しホームでの様子をお知らせしている。又、ホームページを開設して随時更新し、どこからでもホームの状態が見られるようにしている。 金銭管理については、毎月お小遣い長をコピーして郵送している。  (外部評価) ホームでの暮らしぶりは、ホーム便りやホームページなどでいつも見てもらえるよう工夫している。健康状態等については、来訪時に伝えている。頻繁に来訪することが難しい家族もいるので、毎月電話か文書による報告もしている。	※	毎月、入居者の担当スタッフが1ヶ月の様子を電話か文書でそれぞれのご家族に知らせるようにする。
15	8	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	(自己評価) 年に2回の家族会、2ヶ月に1回の運営推進会議の開催で出た意見は、前向きに検討してグループホームの運営にすぐに反映できるようにしている。 10月の家族会で出た、「毎月の入居者の詳細な様子が知りたい」の意見もすぐに職員と相談して実行。  (外部評価) 年2回家族会を開くとともに、運営推進会議にも参加してもらい、家族が意見等を出しやすい場づくりに努めている。出された意見については誠意をもって対応し、運営に反映させている。		



自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
16		○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	(自己評価) 意見・疑問ノートを各フロアーに置いて、日頃の業務で気付いた事等を書いてもらい、それをカンファレンスで話し合っってより良い方法を模索している。		
17		○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	(自己評価) 新入居者の状態により、例えば、男性職員の対応を受付けない方の場合なら、女性職員に交代したりするなど柔軟に対応している。		
18	9	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	(自己評価) 職員のフロアー移動は、1度に複数人の交代はしないようにして、馴染みの関係が途切れないように留意している。入居者の心理的な事も考慮しながら、職員の配置をしている。  (外部評価) 前回調査から一年間は異動や離職はほとんどない。やむを得ない場合には、引き継ぎを十分することは勿論、早い段階から顔馴染みになれるよう工夫している。		
<b>5. 人材の育成と支援</b>					
19	10	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	(自己評価) 雇用の始め、1週間程度研修期間に当てている。当ホームのマニュアルを説明しながら実際の業務の実施をしている。外部研修への参加については順番に参加出来るよう留意している。また、詰所等に講習予定を貼り、個人的に行く職員などもいる。  (外部評価) 県在宅介護研修センター、グループホーム連絡協議会、県社協などの研修情報を開示し、適切な研修を順次受講できるよう支援している。職員は意欲的に、興味のある研修を受講している。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
20	11	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	(自己評価) グループホーム相互研修を行ったり、定期的に交流会を開催して、意見交換、意識向上を図っている。  (外部評価) 近隣8つのグループホームでネットワークを築いており、順番に担当ホームがテーマや会場を提供しての相互研修を実施している。地域包括支援センターも巻き込みながら連携を深めるように努めている。		
21		○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	(自己評価) 職員の家庭環境を考慮し、休み希望を聞き、シフトを組んでいる。		
22		○向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	(自己評価) 職員に研修、連絡会等への参加を呼びかけ、シフトの調整を行う等して向上心を持って働けるよう環境を整えている。		
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
<b>1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応</b>					
23		○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	(自己評価) 入所前の相談時から、ご本人、御家族の不安や要望をしっかりと傾聴し、どの様に対応すると満足していただけるか十分に検討している。		
24		○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	(自己評価) 入居前の面接でより深い情報を得て、ホームの方針を示すことで家族の不安を解消し、安心して頂けるよう努めている。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
25		○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	(自己評価) ご本人、ご家族のニーズを把握し、入浴、食事作り、レクリエーションの参加など意思を尊重したサービスプランをたてている。		
26	12	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	(自己評価) 入居希望があったら御家族と一緒に来所して頂き、ホームの雰囲気に慣れるように支援し、自宅を訪問して生活環境を把握し、希望を聞いたりして、御家族と連携を取っている。  (外部評価) 利用前に自宅や病院等を訪問し、本人や家族に直接会って状況や生活環境を理解するようにしている。また、ホームに来訪してもらい、雰囲気を体験しながら馴染めるように配慮している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
27	13	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	(自己評価) 童謡・唱歌等を一緒に唄い、昔を思い出して当時のことを教えて頂いたり、一緒に食事作りをし、調理方法を教わっている。職員は尊敬と感謝の気持ちを言葉にしてより良い関係を築いている。  (外部評価) 利用者の生活力等を見極めながら、自分でできることを喜びと感じてもらえるよう支援している。職員は、利用者の「来てくれたん」などの喜んでくれる声に支えられている。		
28		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	(自己評価) 御家族とコミュニケーションを取り、自宅での暮らしぶりなどを教えて頂いたり、現在の状況を常に報告して話をする場を設けている。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
29		○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	(自己評価) 運動会や、お祭り等の御家族が参加する行事が多く、特に年1回のバス旅行では御家族とご本人との良い思い出作りの場となっている。		
30		○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	(自己評価) 買物、外出等で入居者の家の近くを通ったり、思い出の場所を選んで出かけたりしている。友人などの面会も受け入れている。手持ちの昔の写真を見ながら会話をしたり、若い頃の話聞くようにしている。		
31		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	(自己評価) 常に、入居者同士の言動に気を配り、関係を把握し、トラブルは未然に防ぐ事が出来る様に努めている。レクリエーションや手伝い等、皆で楽しんで行っている。また、時には職員の見守りのもと、入居者同士と一緒に入浴したりしている。		
32		○関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	(自己評価) 退所された後でも、いつでも来所出来るような声掛けや状態を作っている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
<b>1. 一人ひとりの把握</b>					
33	14	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	(自己評価) 一人ひとりの思いや意向の把握に努め、生きがいのある生活が出来るように支援している。  (外部評価) 入居時に本人及び関係者等から聞いたことと、利用者へ寄り添って話を聞いたり、日々の言動の中から把握した思いや意向について、センター方式で記録して蓄積し、共有している。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
34		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	(自己評価) 入居前の生活歴、馴染みの暮らしをアセスメントし、今までに使っていた家具や、仏壇等馴染みのある物を居室に置き、安心して生活して頂けるような生活環境作りに努めている。		
35		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	(自己評価) 毎朝決まった時間にバイタル測定をし、心身状態の把握に努めている。また、日常生活の中でできる事をみつけ、役割として支援している。生活記録の中でも日々の過ごし方を把握している。		
<b>2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し</b>					
36	15	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	(自己評価) 月2回の会議に職員がユニットごとに分かれ、ケアカンファレンスをし、活発に意見を出し合い、介護計画を見直している。モニタリングをし、ご本人、ご家族の意向を反映しながらより良いプラン作りをしている。  (外部評価) 利用者ごとに担当職員を決めているが、担当職員のみならず、介護計画の具体的な目標を介護日誌と連携して記載できる工夫をしている。常に全職員が利用者一人ひとりの介護目標の評価ができ、新たな介護計画に活かしている。		
37	16	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	(自己評価) 定期的な介護計画の見直しの他に、状態の変化や入院等で日常生活動作の相違が生じた時は、その都度プランの見直しをし、ご本人、御家族の同意を得ている。  (外部評価) 基本的には3か月～6か月での見直しとしているが、実質的には毎月2回のミーティングのうち1回はカンファレンスを中心としており、一人ひとりの月間アセスメント表を作成して細かく再評価している。これを基に必要なに応じて具体的な介護計画を作成している。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
38		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	(自己評価) 月2回のカンファレンスを通して行えている。また、気づきを個別記録に記入しスタッフ間で情報共有し、ケアの質の向上に努めている。		
<b>3. 多機能性を活かした柔軟な支援</b>					
39	17	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	(自己評価) 御家族やご本人の都合に合わせて面会時間に制限はなく、プライベートな空間で和めるスペースを作っている。外食、外泊についてもいつでも良い時間に行きついでいる。  (外部評価) デイサービスへの参加、外食、バス旅行、自宅訪問、病院受診など、利用者の希望にそえるよう柔軟に様々な取組みを行っている。		
<b>4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働</b>					
40		○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	(自己評価) 年1回の消防の指導や、中学生の職場体験、専門学生のボランティアの受け入れを積極的に行っている。		
41		○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	(自己評価) 医療依存度の高い方を他施設に紹介したり、地域の居宅支援事業所からの入所の相談などに応じている。		
42		○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	(自己評価) 地域包括支援センター開催の連絡会に出席し、情報交換を行っている。		



自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
43	18	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	(自己評価) ご本人、御家族の許可を得て、協力病院から往診（内科、皮膚科、歯科）に来て頂いている。また、個人的にご本人のかかりつけの病院へ通院したり、他科への受診も必要に応じてスタッフと通院している。  (外部評価) 協力医療機関の医師をかかりつけ医としており、専門的な医療機関の受診が必要な場合は、協力医療機関に連携をとってもらっている。かかりつけ医と看護師による週2回の往診で健康管理に努めている。		
44		○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	(自己評価) 認知症の理解が十分に出来ている医療機関に受診し、周辺症状が悪化している場合にも助言を受けたり、内服薬の処方をしてもらっている。		
45		○看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	(自己評価) ホームに何名かの看護職員がおり、入居者の症状に合った対応、医療機関への受診につないでいる。		
46		○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	(自己評価) 協力病院、救急病院への入院時には密に連絡を取り、病状の経過、退院の時期を相談し、出来るだけ早く再入居できるよう対応している。また、職員が出来るだけ病院にお見舞いに行き、ご本人の心のケアになるよう努めている。		
47	19	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	(自己評価) 入居時に重度化や終末期のあり方についてご本人や御家族と話し合い、方針を決めている。グループホームでの対応が困難になった場合、御家族と話し合い、ご本人にとって安心して過ごせる施設に移行していただくよう話し合いをしている。  (外部評価) 重度化や終末期における指針を作成しており、入居時に十分な説明をしている。また、必要に応じて医師と連携しながら話し合いをもっている。		



自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
48		○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	(自己評価) 御家族、ご本人の意向を第一に受け止めながら、医療依存度によっては主治医、入院先のソーシャルワーカー等と情報共有し、十分な説明のもと家族の理解を得ている。		
49		○住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	(自己評価) 関係者間で情報共有し、ご本人がスムーズに住み慣れるよう協働している。申し送りも細かく行っている。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
50	20	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	(自己評価) 接遇月間を設け、職員の意識を再度向上させたり、個人名を表に出さずに部屋番号で記録箱も管理している。  (外部評価) 利用者の尊厳を損ねることがないよう、声かけや対応には配慮している。プライバシーに関する記録などを不用意に目につく所に放置しないよう、常に注意している。		
51		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	(自己評価) お茶の時間も「この中からどれにしますか？」とボードを使ってリクエストを聞いたり、入浴時間の相談をしたり、相手に合わせた対応が出来ている。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
52	21	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	(自己評価) 買物や外出など、一人ひとりのペースや希望を優先し、それに沿えるように努めている。行事などの都合上職員側の都合になってしまうこともあるが、その都度説明している。  (外部評価) 一日の基本的な流れはあるが、利用者のその日の状態や気分により柔軟に対応している。食事時間に「後で」と言われれば折を見て再び声をかけたり、食欲を誘うような声かけを工夫するなどしている。		
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
53		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	(自己評価) 着る洋服を一緒に選んだりして、その方らしい身だしなみができるように努めている。汚れていれば更衣の声掛けをし、支援している。毎月1回美容院の訪問があり、希望者にカットを提供している。		
54	22	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	(自己評価) 毎日、一緒にコミュニケーションを取りながら食事作りや片付けをしている。希望や状態にあった食事を提供し、楽しく美味しく食べれるように支援している。  (外部評価) 材料の下ごしらえを共にしたり、配膳を手伝ってもらうことで、香りや視覚も働かせて、食べる楽しみを演出している。ゆっくり食べる方を急かしたりすることなく見守り、会話をしながら食卓を共に囲んでさりげなく支援している。	※	食器洗いは一人の方だけでなく、他にもやりたい方はいるので、いろんな方ができる様に工夫したい。
55		○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	(自己評価) 健康状態に配慮しながら、一人ひとりの嗜好に合わせて支援している。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
56		○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	(自己評価) 定期的に声掛けをし、スムーズな排泄を促している。布パンツだけで不安な方は、パットを使用し、日中は布パンツで過ごしていただいている。	※	各自の排泄パターンをより把握し、失敗の回数を減らしたい。
57	23	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	(自己評価) 一人ひとりの入浴希望時間を聞き、ニーズに合った入浴をして頂いている。また、保湿保温効果のある入浴剤を使用し、入浴後も気持ちよく過ごせるように支援している。  (外部評価) 利用者の習慣を大切にしながら、入浴の頻度や時間帯等を工夫している。入浴が好きでない方も清潔を保てるように、声かけを工夫している。必要に応じてシャワー浴もできる。		
58		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	(自己評価) 疲れた時には、居室で横になれるように支援している。昼間は、適度にレクリエーション等で体を動かしてもらい、良く睡眠が取れるように支援している。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
59	24	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	(自己評価) 御家族ご本人のアセスメントから、生活暦を把握し介護計画を立てている。役割や趣味を取り入れて毎日楽しく、生きがいを持ち生活できるように支援している。また、季節の行事も積極的に取り入れている。  (外部評価) 男性の入居者も多く、囲碁や麻雀などを楽しみとしている方もいる。習字、歌、おしゃべり、レクリエーション、ゲーム、公文学習等で頭の体操や気晴らしを支援している。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
60		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	(自己評価) 小額のお金を自己管理できる方は、ご自分で所持して頂き、そうでない方には職員が管理し、買物する時にはご自分で使えるように支援している。		
61	25	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	(自己評価) 毎日食事の買物に入居者と出掛け、一人ひとりの希望に沿って買物、ドライブ、散歩等戸外に出られるように支援している。  (外部評価) 食事の買い物へは、利用者と一緒に毎日出かけている。みかん山の側を散歩するのが日課となっており、のんびりと散策を楽しんでいる。地域の行事が多くあり、ほとんどのものに参加している。		
62		○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	(自己評価) 日常の会話の中で出たご本人が行ってみたい場所や、ホテルやレストランでの外食、家族を交えての遠距離バス旅行等を行い、外出の機会を作っている。		
63		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	(自己評価) 家庭の事情でできない場合もあるが、訴えがあれば電話を掛けられるように支援している。		
64		○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	(自己評価) 訪問時間の規定はなく、いつでも訪問してもらい、一緒にお茶を飲んだり、レクリエーションをしたり楽しい時間を共有していただいている。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(4) 安心と安全を支える支援					
65		○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	(自己評価) 転倒のリスクを考慮しながら、身体拘束をしないケアが行えている。センサー等によりすぐに対応できる環境も整っている。		
66	26	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	(自己評価) 外玄関は防犯の為施錠しているが、内側からの開閉は自由に行えるようにしている。内玄関のセンサーにより出入りを確認し、安全に留意している。  (外部評価) 外玄関は利用者自身が鍵を開けて出入りできる。職員が常駐する事務室からもデイサービスの入り口からも見守ることができる作りになっている。玄関先では常に「いってらしゃい」「おかえりなさい」というあいさつが交わされている。		
67		○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	(自己評価) 職員同士、お互いの居場所を確認し合いながら、常時フロアに職員が一人はいて対応出来る体制にある。居室に入室する際は、必ずノックして声掛けをしている。また、夜間は廊下の明かりをつけて、安全に配慮している。		
68		○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	(自己評価) 包丁、ハサミ、洗剤類、消毒類等も自然な形で収納しており、施錠はしていない。職員が見守り、安全を確保している。		
69		○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	(自己評価) 些細なことでも報告し、ヒヤリハットや事故報告書を元にカンファレンス等で話し合い再発防止に取り組んでいる。火災については年2回入居者・職員全員で防火訓練を行い、職員は定期的に防火訓練を行っている。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
70		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	(自己評価) 地域で実施している救命訓練に職員が参加し、人工呼吸法、AED使用法等を身につけている。		
71	27	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	(自己評価) 年に1回消防署の指導の下、避難訓練を実施し、月に一度ホーム独自で避難訓練、初期消火、通報訓練を実施している。  (外部評価) 利用者も参加して、年2回の避難訓練を実施している。夜間を想定した訓練も行い、連絡網の工夫をし、同時に防災や救命救急の訓練もしている。更に近所だけでなく地域を巻き込んだ避難訓練を考えている。		
72		○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている	(自己評価) 身体の状況や、認知レベルの低下により状態が変わった時や、熱が出た時等も必ず御家族に連絡を入れて報告をしている。状況が変わった時には、一緒に話し合いどのような方向で生活して頂きたいかを聞き、意向もお聞きして、ご本人が一番良い状態で生活が送れるように取り組んでいる。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
73		○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	(自己評価) 毎朝バイタルチェックをし変化を見落とさないようにしている。熱がある場合はクーリングで様子を見る等をし、受診の必要があるか看護職員が見極めをし、対応している。		
74		○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	(自己評価) 薬の効果、副作用は個人別に確認できるようにしている。服薬の確認は職員が声に出して必ず確認をしている。また、排便の状態や、血糖値測定の数値により薬を中止する時もある。		


自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
75		○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	(自己評価) 水分量に注意したり、ヨーグルトや、週に3回来て頂いているヤクルトさんから飲み物を購入して提供したり便秘の予防に努めている。排便の確認をし、3～4日なければ緩下剤を服用する場合もある。		
76		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	(自己評価) 毎食後の口腔ケアの徹底と、義歯の方は寝る前に洗浄液につける事を習慣化し、清潔を保持出来るよう努めている。また、歯科医師、歯科衛生士による歯科受診、口腔指導、メンテナンスを受けている。		
77	28	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	(自己評価) 食事は一汁三菜のバランスの取れたものになるよう支援している。水分は毎食時と、10時のお茶、15時のおやつと、各自飲みたい時に摂って頂き、水分量チェックをしている。  (外部評価) カロリーや栄養バランスに配慮しながら、おいしく喜んで食べてもらえるよう工夫している。水分摂取については、お茶や水だけでなく、汁ものなどで目先を変えながら、無理なく必要量を確保できるよう工夫している。	※	栄養士による定期的な指導を受け、栄養バランスの見直しを行って行きたい。
78		○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している（インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等）	(自己評価) 食事前、排泄後の手洗い、外出後の手洗い・うがいを習慣化し感染予防に努めている。皮膚感染予防のためにも、ゴム手袋を使用し、使い捨てしている。インフルエンザの予防接種も実施している。		
79		○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	(自己評価) 調理用具等は乾燥機を使用したり、夕食後にはまな板や布巾、包丁をハイターにつけて、衛生管理に注意を払っている。食材の賞味期限も気をつけており、毎日買物に行き、新鮮な食材を提供している。		



自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり</b>					
<b>(1) 居心地のよい環境づくり</b>					
80		○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	(自己評価) 門から入り口まで、沢山の花や、金魚やめだかがいる池があり、建物の外観からも「どんな所かな？」と入ってみたい工夫をしている。		
81	29	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価) BGMにオルゴール音楽や、リラックスできる曲等を流している。職員の声や、食器の音等、利用者にとって不快にならないように配慮している。庭に咲いている季節の花を生けたり、ハーブを芳香剤として置いたり工夫している。 <hr/> (外部評価) 玄関先には鉢植えの草花や、めだかが泳ぐ水鉢が配されている。台所はオープンな作りで居間と一体となっており、何をしていても利用者と一緒に居るような安心感がある。ゆったりとソファに座り、みかん山に続く広い庭の緑を眺められる。廊下は車いすが行き交うことのできるゆとりがある。		
82		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	(自己評価) 台所、リビングスペースにおいてゆとりがあり、職員の目の届く中で一人ひとりの居場所を持てるようにしている。また、ホームとデイサービスが対面する玄関前にベンチを置いて外の空気を吸いながらゆっくり出来るようにしている。		
83	30	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価) 居室の家具はご本人の好きな物を持ち込みして頂いている。自宅で使用されていた馴染みの家具やお仏壇など、ご本人が過ごされていた時と同じような空間作りで安心して過ごせるよう工夫をしている。 <hr/> (外部評価) お供え物をしてある仏壇、使い慣れたタンス、家族の写真、手作りの花や書、机など、各々の馴染みの物が持ち込まれ、安心して過ごせる自分の居場所を作っている。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
84		○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のだよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	(自己評価) 掃除の都度換気をしている。また、冬季でも定期的に換気を心掛けている。室温はできるだけ一定に保ち、利用者それぞれの体感温度も考慮して衣類を選んでもらっている。		
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり					
85		○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	(自己評価) 過去のヒヤリハット報告や、利用者・スタッフの意見を活用して、カーペットの段差やゴミ箱の配置、浴室の手すり位置等安全かつ利用しやすいように工夫している。		
86		○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	(自己評価) 短い声掛けや、メモに書いたりなど、その方に応じた声掛けで自立支援を心掛けている。		
87		○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	(自己評価) 中庭は芝生を敷き詰め、二人乗りのブランコもあり楽しんで頂ける空間作りをしている。天気の良い日はそこで行事やお茶などをして活用できている。		

(注)

- 1  部分は自己評価と外部評価の共通評価項目。
- 2 全ての自己評価又は外部評価の項目に関し、具体的に記入すること。

V. サービスの成果に関する項目			
項目	取り組みの成果 (該当する箇所を○印で囲むこと)	判断した具体的根拠	
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	① ほぼ全ての利用者の 2 利用者の2/3くらいの 3 利用者の1/3くらいの 4 ほとんど掴んでいない	お米が食べられない方は毎食パンを提供したり、朝食はパンにジャム、ココアと決めている方にはそれを提供している。入浴も夕方に入る習慣がある方には希望通り受け入れている。また、買物やドライブに行きたい時には、その都度お連れしたり、デイサービスの送迎時に一緒に便乗して気分転換を図るなど工夫している。
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	① 毎日ある 2 数日に1回程度ある 3 たまにある 4 ほとんどない	のんびり一緒に洗濯物を干したり、お茶を飲みながら食事のメニューを決めたりしている。
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	① ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	お手伝い、入浴、レクリエーション、外出、行事の時には、その都度本人に意向を確認した上で無理の無いように参加している。
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	① ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	随時近所の散歩に一緒出かけることや、掃除、食事作り、洗濯物干し・たたみ等その方の出来る事を見守りの中でしていただいている。その際に職員が必ず「助かりました、ありがとうございました。」など笑顔で言葉掛けすることも心がけている。常に利用者様の表情や笑顔を見ながら声かけをするようにしている。
92	利用者は、戸外に行きたいところへ出かけている	① ほぼ全ての利用者が ② 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	一人で玄関を開け、隣接するデイサービスに行ったり、玄関先等を散歩して戻って来られたり、ドライブや買物に行きたいとの要望がある時にはその都度出掛けている。
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	① ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	定期的な往診、毎朝のバイタルチェックをしている。熱が37℃以上の時には再度測定している。血圧では上が140以上の時にも再度測定して、日頃と違う時や変わった事がある時には、すぐ看護師に連絡している。看護師が勤務でない時には協力病院に連絡し、Drの指示で対応している。
94	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	① ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	朝は自分で起きられる方以外は、7時に声掛けをしている。眠たいと言われる方や声を掛けて起きられない方はしばらく休んで頂いている。夜も就寝時間は決まっていないが9時までには休まれている。眠れないと起きて来られる方にはリビングでテレビを見て頂いたり、温かい飲み物を飲んで頂き安心する事が出来るようにしている。
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができていく	① ほぼ全ての家族と 2 家族の2/3くらいと 3 家族の1/3くらいと 4 ほとんどできていない	行事や面会時に、ホームでの生活や状況等報告している。更新時には家族様の意向、本人様にどのように過ごして欲しいか聞き、ケアプランに反映させている。また、運営推進会議等の時には、家族様だけでの話を設け、後でご意見等頂いている。
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	① ほぼ毎日のように 2 数日に1回程度 3 たまに 4 ほとんどない	地域の方が来られたり、近隣の認知症の方が時々ホームに立ち寄り、お茶を飲みながら入居者の方や職員との会話を楽しむ光景がある。

項 目		取 り 組 み の 成 果 (該当する箇所を○印で囲むこと)	判断した具体的根拠
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	1 大いに増えている (自己 ② 少しずつ増えている 評価) 3 あまり増えていない 4 全くいない	年度が変わり地元町内会の役員さんも別の人が参加して知り合いが増えた。町内会の行事にはすべて参加しているので少しずつ応援者も増えている。
98	職員は、生き活きと働いている	(自己 ① ほぼ全ての職員が 評価) 2 職員の2/3くらいが 3 職員の1/3くらいが 4 ほとんどいない	毎朝の朝礼で気持ちの良いスタートがきれるようにしている。スタッフ間のチームワークも取れており、良好な人間関係を築く事が出来ている。
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	(自己 ① ほぼ全ての利用者が 評価) ② 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	本人の意向を確認しながら、ケアを進めている。手伝い等も見守りのもと無理のないように活動量を調整している。行事、外出、外食等も計画し、楽しみながら生活できるようにしている。
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	(自己 ① ほぼ全ての家族等が 評価) ② 家族等の2/3くらいが 3 家族等の1/3くらいが 4 ほとんどできていない	面会や、家族会に来られた時に意見、希望、気づいた事などを聞いて次のケアプランに生かせるよう努力している。又、状態の変化があった時などは速やかに連絡するよう努力している。しかし、意見が言えない場合もあるかと思うので、できるだけ言いやすい雰囲気づくりをしたい。

## 【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

(自己評価)